

受講番号 18052 学校名 高知商業高等学校 氏名 足達 敬子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年国際コミュニケーション科 生徒数 35 名
科目名 OC 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 OPENDOOR

クラスの様子・特徴

35人中男子4名で3年間クラス替えがない。英語が好きな生徒が多く、全体として学習に対する意識も高い。授業も落ち着いて受けることができる。しかし、1年次の学習の中で、英語に対する意欲や学力の差が大きく開いてきている。

問題の確定

語彙の定着の不足。文法の定着の不足。長文を読む際の集中力の不足。リスニングに対する苦手意識。

予備調査

A 授業の観察

ALTとのTTでは、教科書の問題にほとんどの生徒が正しく解答できる。教材の選定や1回に聞く英文量の調節など生徒がチャレンジできる工夫が必要である。長文読解では、取り組む前にあらかじめしる生徒や、最後まで読み進められない生徒もいる。

B 生徒による授業評価

授業開きの日に自由記述式のアンケートを行った。「単語を覚える量が多く、覚えきれない」「文法がわからない」「集中力が続かない」などの意見が多かった。

C 学力データ

1年次にH17年度実用英語技能検定第3回を個人の学力に応じてそれぞれの級を全員受験した。
3級 5人中 3名合格
準2級 28人中 10名合格
2級 2人中 1名1次合格

リサーチ・クエスチョン

英語の学習に対して意識が高いクラスで、語彙力や文法力を付けることで読解力を養い、一人ひとりが目標を持って学んでいくにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

普段からある程度まとまった量の英文を読む機会を増やせば、長文を読むことに慣れ、苦手意識がなくなるのではないかと。

実践1

各レッスンのパートを分けて、4パートを一気に読ませるようにした。(500words程度)各レッスンのはじめに新出語句や重要表現を載せた語句チェックシートを渡して、読解の手助けになるようにした。内容についての質問は、本文から語句を検索する程度の問題から日本語で内容を問う問題まで、難易度を変えた。また、はじめから通して何回も同じ英文を読む機会を作った。

検証1

レッスンの最初に本文の量を見たときは、「多い」という声が出るが、問題のワークシートにまったく手を付けられない生徒はいない。授業の感想としては、「難しい」「ついていけない」というものもあるが、「楽しい」「わかる」という回答の方が多い。今後は、「読み方」の指導が必要だと思われる。

仮説2

語彙力を増やせば、長文を読むことに対する抵抗が少なくなり、読む意欲を持てるのではないかと。

実践2

授業とは別に、週2回、帰りのホームでDUO3.0を使って単語テストを行った。また、単語テストを実施した範囲を定期テストの範囲とし、語彙力の強化に努めた。1回のテストの範囲は20文(約100 words)で、テストでは7文中の14単語の意味を書く。

検証2

単語テストは「範囲が広い」「難しい」という感想が多い。14点満点中、0点や1点も多く、事前の学習なしに受けている生徒が多い。しかし、12月のアンケートの「どんな力がついたと思うか」という質問の答えの中では、「読解力」や「変わっていない」という答えと並んで「語彙」という答えが第2位であり、手ごたえを感じている生徒もいる。勉強せずただ受けるだけという単語テストのやり方を再考する必要がある。

仮説3

基本的な文の構造を理解し、特徴的な文のパターンを覚えることで、長文読解の手助けになり、理解も速くなるのではないかと。

実践3

1学期は授業の中で、夏期休業中は補習や合宿で、また、2学期からは週1回の補習で、数研出版の「基礎と発展 英語構文ワーク100」を使って文法の復習をした。また、2学期からは問題集の3分の1程度の量を範囲として、週1回確認テストを行い、合格点に満たない場合は再テストを行った。

検証3

12月のアンケートで生徒が「4月と比べてどんな力がついたと思うか」という質問に対して1番多かった回答が「文法」であった。「文の構成や文の意味がなんとなくわかるようになった」という意見もあった。しかし、その理解の程度は様々で、問題集と同じ問題であれば解けるが、読んだり書いたりするときに覚えたことを利用するまでに至らない生徒が多い。

研究の成果

授業を大切にすることを訴えながら取り組んできた結果、英語が好きな生徒は自分で目標を持って学習し始めている。12月のアンケートの中で「4月から頑張ったこと」に対する答えとして、「授業」と「単語」が多かった。長文読解では、最初の1時間である程度の内容を理解しており、読解力や集中力も少しずつついてるようだ。また、授業や各種テストについて「難しい」「ついていけない」と回答した生徒も、投げ出さず少しずつでも取り組んでいることは大きな意味があると思う。2年次に受けた実用英検の結果、合格者は準2級4名である。

今後の授業改善の課題

語彙力や文法力は継続することが大切。毎週のテストは継続するが、ただ受けるだけにならないように工夫が必要である。一つ一つの活動の意味を言い続け、目標を持って取り組まなければならない。文法や単語を覚えても、次に長文の中で出てきた時に気づいたり、話したり書いたりする際に使えるようになるには至っていない。意欲を失わないよう、どの場面で達成感を持たせ、向上心をもって取り組ませるかが課題である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-844-0267

電子メール

keiko_adachi@kt5.kochinet.co.jp